JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	大原　淳	学校名	千葉　都・道・府・県 千葉市立有吉小学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	特別支援学級（５名）
実践年月日もしくは期間（時数）		２０１９年９月　～　１０月（８時間）	

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：　生活単元学習

2. 単元(活動)名：　せかいとなかよし

3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標

授業テーマ：　「特別な支援を有する児童に、国際理解の素地を育ませる指導方法」

単元目標：

○世界の国々に興味・関心を持ち、パラグアイの文化の体験的活動に意欲的に取り組む。（進んで参加する態度）

○パラグアイを元に、日本の生活や文化との相違点や共通点に気付く。（つながりを尊重する態度）

○パラグアイを元にした学習を通して、発展途上国のために自分ができることは何なのかを考え、行動する態度を養う。（多面的・総合的に考える力）

関連する学習指導要領上の目標：

○「生活単元学習 は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に 経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習するものである。」（特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)より引用）

4. 単元の評価規準（※児童毎に記載）

児童	単元に関する実態	単元の評価規準
A 児	○外国にほとんど興味・関心がない。 ○自分が日本に住んでいることを理解することは難しい。	○外国に興味・関心を持ち、教師とともに進んで体験的活動に取り組むことができる。 ○世界には、日本とそれ以外の国があることを理解することができる。
B 児	○外国にとても興味・関心がある。（遊び、食べ物、踊り、家、服、学校、スポーツ、挨拶、祭り、音楽等） ○自分が日本に住んでいることを理解していて、世界には様々な国があることも理解している。	○自分から進んで体験的活動に取り組むことができる。 ○パラグアイと日本の生活や文化の相違点や共通点に気付くことができる。
C 児	○外国に興味・関心がある。（遊び、食べ物、家、挨拶、音楽等） ○自分が日本に住んでいることを理解することは難しい。	○自分から進んで体験的活動に取り組むことができる。 ○世界には、日本とそれ以外の国があることを理解することができる。
D 児	○外国にとても興味・関心がある。（遊び、言葉、挨拶、音楽等） ○自分が日本に住んでいることを理解していて、世界には様々な国があり全部で１９６か国あることも理解している。	○自分から進んで体験的活動に取り組むことができる。 ○パラグアイと日本の生活や文化の相違点や共通点に気付くことができる。
E 児	○外国に興味・関心がある。（食べ物、踊り、家、学校、言葉、挨拶、音楽等） ○自分が日本に住んでいることを理解していて、世界には様々な国があり全部で１９６か国あることも理解している。	○自分から進んで、苦手な体験的活動にも取り組むことができる。 ○パラグアイと日本の生活や文化の相違点や共通点に気付くことができる。

5. 単元設定の理由・単元の意義 （児童／生徒観、教材観、指導観）	【単元設定の理由】 　近年、島国である日本にもグローバル化の波が押し寄せ、日常で外国人を見かけることも多くなった。2020 年には、我が国でもオリンピック・パラリンピックが開催され、世界中の人々がここ日本に集まってくる。将来を担う子どもたちにとって、国際的な視野と国際社会で生きる能力を身に付けることがこれまで以上に必要になってきている。 【単元の意義】 　本単元では、まず子どもたちの生活が外国の物によって支えられていることを気付かせる。代表的な日本の食べ物であるお好み焼きや、自分たちが学校生活で使う文房具など身近なものを教材に、カードゲームを通して外国との繋がりを学習させていく。それと並行して、週１回朝学習の１０分間を利用した、「ワールドタイム」を行う。「ワールドタイム」とは、外国で撮った１枚の写真を子どもたちに見せ、それが何なのか子どもたちが当てる活動である。その活動を通して、異文化の存在に気付かせ、それを受容する態度を身に付けさせていく。上記の２つの学習活動により、子どもたちに外国のことを知り、外国と繋がっていく必要感を持たせたい。 　次に、JICA 教師海外研修で行くパラグアイに焦点を当て、学習させていく。現地から持ち帰ってきた遊びの道具や食材、学習に使う文房具などの本物の教材を用いて、学んでいく。子どもたちにとって身近な事柄（遊びや食事、学校生活等）を教材にすることで、日本との相違点や共通点に気付きやすく、外国に対する興味関心がより高まると考える。 　最後には、子どもたちがパラグアイの小学生宛てに書いた手紙の返信を、実際に現地の小学生が手紙の返信を書いている様子を映した動画を見せながら、子どもたちに渡す。子どもたちは、地球の反対側に友達ができたことを喜び、外国をより身近な存在として感じるだろう。その気持ちを元に、これから自分たちが外国のためにできることは何なのか考えさせていきたい。 【児童／生徒観】 　本学級の子どもは、知的学級２名と自閉症・情緒学級３名の計５名で構成されている。道徳や外国語活動、生活単元学習等は異学年集団を利用して共に学び合っている。 　「ワールドタイム」では、意欲的に手を挙げて自分の意見を言う子どもが多い。外国の名前を覚えたり、保護者に対してもワールドタイムで学んだ内容を話したりするなど、異文化に対して少しずつ興味関心が高まってきている。また、週１回行っている「チェリータイム」（外国語活動）においても、英語を使いながら楽しそうに歌やゲームに取り組んでおり、語学を通して異文化に親しんでいる。 　しかし一方で、今自分がいる国が日本であるということを理解することが難しい子どもや、「チェリータイム」（外国語活動）に意欲を持って取り組めない子どももいる。また有吉小学校付近は、それほど外国人が住んでいる地域ではなく、外国との繋がりを意識して生活している子どもは少ない。子どもたちの発達段階からみても、まだまだ国際的な視野に立って物事を考えることは難しいと言える。 【指導観】 　障害の特性や学力など異なる能力の子どもたちが一緒に外国の文化を学ぶにあたり、見たり聞いたりして学習するよりも、実際に体験して学習したほうが関心を高められ多くのことを習得することができると考える。そこで、パラグアイで得た本物の教材を用いて、遊んだり作ったり動いたりしながら体験的学習を中心に進めていきたい。現地で撮ってきた写真や動画も多用し、視覚でも捉えられる活動にしていく。そうすることで、子どもにとって意識しづらい外国の文化を、楽しんで学ぶことができると考える。 　相手の気持ちを汲み取って人とコミュニケーションを取ることを苦手とする本学級の子どもたちにとって、他者を理解し関わり方を学ぶことはとても大切である。そしてそれは国際理解教育でも同じである。将来、さくらんぼ学級の子どもたちが大人になり自立する頃には、日本でも外国人労働者がますます増え、彼らと接する機会も多くなる。そうした時に今回の学習で学んだことを生かし、異文化を認め互いに助け合って生活していけるような大人になってほしい。

6. 単元計画（全８時間）				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
0	ワールドタイム	○世界には日本以外の国があり、それぞれの国に日本にはない良さがあることを知る。	①フォトランゲージ(外国のある様子を写した写真を１枚見せて話し合う活動）を行い、外国の良さを知る。 ＜毎週水曜日の朝学習１０分間＞	○ＥＳＤフォト・クリップ教材集 ○自分で撮ってきた外国の写真
1	パラグアイの友達に手紙を書こう	○パラグアイにいる子ども達宛に手紙を書くことで、外国に対する興味・関心を高める。	①日本の反対側にあるパラグアイの紹介ＶＴＲを見て、そこでも自分と同じような年代の子ども達が生活していることを知る。 ②担任が夏休みにパラグアイに行くことを知り、現地の小学生に、手紙（質問やメッセージ）を書く。	○ＰＰＴ「パラグアイの紹介」
2	お好み焼きはどこから来たの？	○「げんきキャンプ」で作るお好み焼きの材料が、実はほとんど外国からの輸入に頼っていることを知り、世界と仲良くしていく必要性を感じる。	①資料（映像や写真）を見て、お好み焼きが有名な和食であることを知る。 ②資料（映像や掲示物）を見たり、ゲームをしたりして、お好み焼きの材料のほとんどが外国からの輸入に頼っていることを知る。 ③自分たちはこれから、外国とどう付き合っていけばよいのか話し合う。	○動画「お好み焼きの作り方」 ○ゲーム ○「生きる力」を育む国際理解教育実践資料集(JICA 地球ひろば)
3	パラグアイのことを知ろう	○パラグアイの基本情報を、映像を通じて知ったり、実物に触れて体験したりすることで、外国に対する関心を高める。	①パラグアイの基本情報（国旗、言語、人や街の様子等）を、映像を通じて知る。 ②実物（お金、伝統刺繍等）に触れる。 ③日系人を紹介し、パラグアイと日本の繋がりを意識する。	○ＰＰＴ［パラグアイの基本情報］ ○パラグアイのお金 ○ニャンドゥティ
4	パラグアイの遊びをやってみよう	○パラグアイの遊びを体験することで、外国に対する興味・関心を高める。	①パラグアイの遊びを体験する。 ②日本の遊びとの共通点や相違点について話し合う。	○ＰＰＴ「パラグアイの遊び」 ○コマ ○トランプ
5	パラグアイ料理を作って食べてみよう	○パラグアイ料理を体験することで、外国に対する興味・関心を高める。	①パラグアイ料理(タジャリン、チーパ、マテ茶、コシード）を作る。 ②パラグアイ料理を食べる。 ③日本の料理との共通点や相違点について話し合う。	○ＰＰＴ「パラグアイの料理」
6	パラグアイの学校を体験してみよう	○パラグアイの学校生活を体験することで、外国に対する興味・関心を高める。	①パラグアイの時間割を体験する。 ②パラグアイの文房具や教科書、ノート等に触れて使ってみる。 ③日本の学校との共通点や相違点について話し合う。	○ＰＰＴ「パラグアイの学校生活」 ○文房具、教科書
7	パラグアイの困っていることは何？	○カテウラの貧困事情や音楽団の活躍を知ることで、発展途上国のために働きかけようとする気持ちを高める。	①「スラムにひびくバイオリン」を読む。 ②カテウラの貧困事情を知り、廃材を売って生活している人の仕事をロールプレイで体験する。 ③カテウラ音楽団について知り、廃材から作られたバイオリンに触れる。 ④自分たちでできることはないか、話し合う。	○ＰＰＴ「カテウラ音楽団」 ○廃材から作られたバイオリン

8 本時	パラグアイの友達からの手紙に返事を書こう	○手紙の返信を受け取り、それに対する返事を書くことで、パラグアイや外国に対する興味・関心をさらに高める。	①パラグアイクイズに答える。 ②子ども達が自分で書いた手紙が、実際にパラグアイの子どもたちに教師を介して手渡され、返事を書いてもらった動画を見る。 ③パラグアイの友達からの手紙に、返事を書く。	○ＰＰＴ「パラグアイクイズ」 ○動画「手紙の返信」

7．本時の展開（８時間目）

本時のねらい：

○パラグアイクイズに取り組むことにより、現地の文化を再度理解し、外国に対する意識を高める。

○手紙の返信を受け取り、返事を書くことで、パラグアイや外国に対する興味・関心をさらに高める。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (10分)	○前時までの学習内容を振り返る。(一斉) ・掲示物を見たり、パラグアイクイズに取り組んだりすることにより、前時までの学習の振り返りをする。	○学習計画表やそれまでの学習活動を写した写真や掲示物、実物を見せ、学習内容を想起させやすくする。	○学習計画表 ○三択パラグアイクイズ ○ニャンドゥティ ○マテ茶
	○学習課題を伝える（一斉） パラグアイのともだちからのてがみに　へんじをかこう		
展開 (28分)	○手紙の返信を渡し、パラグアイに対する気持ちを高める。(一斉) ・動画を見て、手紙の返信を受け取る。	○手紙のやり取りをしている動画を見せることで、パラグアイの小学生に対する興味・関心を高める。	○動画 ○手紙の返信
	○手紙の返事を書かせることで、パラグアイに対する気持ちをさらに高める。(個別) ・パラグアイの友達からの手紙に、返事を書く。	○黒板にパラグアイクイズの答えを貼ることで、返事の内容の参考にさせる。	○クイズの答え
	○手紙の内容を全体で共有させる。(一斉) ・全員の前で、手紙の内容を発表する。	○パラグアイに対する興味関心が高まったことがわかる内容を、全員の前で称賛する。	
まとめ (7分)	○本時の振り返りをさせる。(個別) ・本時の振り返りを、振り返りカードに記入する。		○振り返りカード
	○次時の予告を伝える。(一斉)	○全員で考えた活動を、これから実践していくことを伝え、見通しを持たせる。	

8．評価規準に基づく本時の評価方法

○パラグアイクイズに意欲的に取り組むことができる。

→【行動観察】クイズに意欲的に取り組む行動が見て取れれば、外国に興味を持ち進んで関わろうとする態度が身に付いたことがわかる。

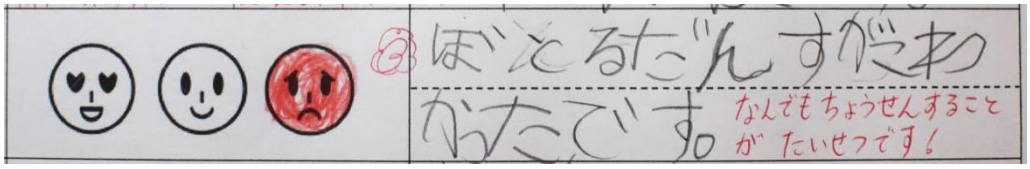
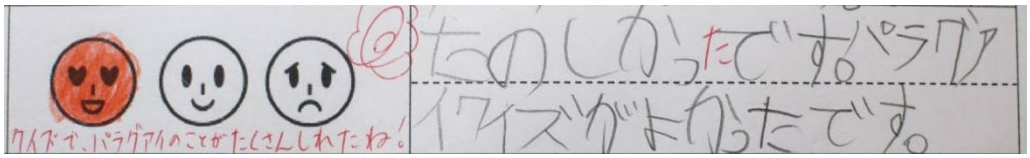
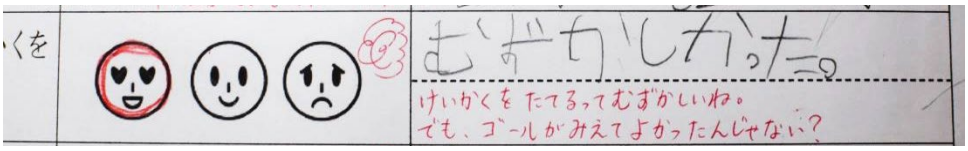
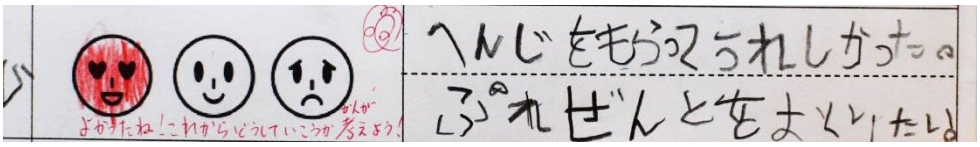
○これまで学習してきたことを元に、パラグアイの友達からの手紙に返事を書くことができる。

→【手紙】パラグアイの友達に向けた手紙の内容に、相手の置かれた状況を理解したり、気持ちに共感したり、学習したこと等が書かれていれば、外国への興味関心が高まったことがわかる。

9. 学習方法及び外部との連携 ○クイズ学習 ・子どもたちは、基本的にクイズが大好きである。そのため学習の導入で用いることにより、学習内容に対する興味関心を高めたり、それまでの既成概念を壊したりすることにも繋がる。 ○パラグアイ大使館 ・カテウラ音楽団の廃材から作った楽器を子どもたちに見せたかったため、パラグアイ大使館まで出向き、閣下の私物であるバイオリンを借りた。授業では、カテウラ音楽団が演奏している映像とともに借りてきたバイオリンを子どもたちに見せて体験させることで、学習内容の理解が深まった。 ○サンタエレナ小学校で活動する山口隊員 ・現地の子どもたちと手紙の文通を行うため、実際に海外研修で訪れた小学校で活動する山口隊員に協力をお願いした。その結果、子どもたちは相手意識を持って手紙を書くことができた。また、相手から手紙をもらう動画を見せることで、外国に初めて友達ができた喜びを感じさせることができ、外国に対する興味関心をさらに高めることができた。
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 ○職員に対する研修 ・パラグアイで学んできたことを、校内で職員に１時間程度で紹介した。現地の教育の現状とＳＤＧｓについて伝えることで、国際理解教育の大切さを職員全体で再度認識することに繋がった。 ○エコキャップ運動 ・７時間目に「パラグアイの人たちのためにできること」をテーマにした話し合いの中から、「薬を送りたい」という意見があった。そこで、近くの区役所で行っている「エコキャップ運動」に着目させ、クラス内で行っている。これからは、この活動を校内放送や文書を通して全校に広めていく。 ○世界のエコに関する授業 ・４年生が「世界のエコ」をテーマに総合的な学習の時間に取り組んでいたため、パラグアイのエコを教材にした授業を４年生の学年全体に行った。それまで学習したことをまとめるだけの子どもたちであったが、学習後まだ使える紙を裏紙として回収したり、手を洗うときに節水を心がけたりする姿が見られるようになった。

【自己評価】

11. 苦労した点	・子どもたちの実態に差があるため、学習内容が難しい授業では、どんなに教材を視覚化したとしても理解させることに苦労した。 ・教材の視覚化と体験化を常に意識して行ってきたため、授業の準備に時間がかかり大変だった。 ・初めてのことに対して、極度に不安感を募る子どもがいたため、いくつか学習内容を体験させることができなかった。場合によっては、外国は怖いという先入観を植え付けてしまう可能性があるため、常に気を付ける必要があった。
12. 改善点	・子どもたちの「パラグアイの何を学習したいか」というアンケートの結果から、今回の単元を設定した。そのため、クラスの実態によっては単元の内容が大幅に変わることが考えられる。 ・７時間目は内容が多いため、２時間に分ける必要がある。後半の子どもたちの話し合いの時間を多めに取り、これからどう外国の人たちに働きかけたいのか、自分たちで意見が出せると、より意識を高めることができる。 ・行事に関わりのある「お好み焼き」を導入で用いたが、クラスの実態や行事によっては、別の日本の食べ物にした方が子どもの興味を惹くことができる。
13. 成果が出た点	・自分が日本に住んでいることや外国という概念すら無かった子どもたちだったが、世界にはたくさんの国があるということやパラグアイと日本の違い等を理解することができた。 ・パラグアイの子どもたちに手紙の返信を書く学習では、パラグアイを好きになったことや相手の子どもたちの気持ちを考えた文を書くことができ、国際理解の素地を育むことができた。 ・学習を始めたばかりの頃は、様々な体験活動に不安感を持っていた子どもたちだった。しかし、学習を進めていくうちに積極的に外国の文化を体験してみようと試みる子どもが増えていった。寛容の気持ちを育むことができた。

14.　学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	下記の文は、子どもたちの振り返りカードより抜粋したものである。 ①は、学習が始まった当初、体験活動を怖がっていた子どもの感想である。教師の手本や、友達が体験している様子を見たりしながら、少しずつ慣れさせることができた。最終的に、パラグアイクイズにも意欲的に取り組む姿が見られた。 ①  ぼくるたんすがこわかったです。 なんでもちょうせんすることがたいせつです！ ↓  たのしかったです。パラグアイクイズがよかったです。 クイズで、パラグアイのことがたくさんしれたね！ ②は、当初この単元の学習内容に興味があまり無く、かつ難しいと感じていた子どもの感想である。学習中、座っている時間が長かったり、教師の説明ばかりを聞いていたりすると、特に難しく感じてしまうようであった。そのため、教材を動画などで視覚化したり、実物を用いて体験活動を多く取り入れたりすることで、集中して学習に取り組むことができた。その結果、本時を終えた後の感想で、パラグアイの友達に関心を寄せるコメントを書くことができた。 ②  むずかしかった。 けいかくをたてるってむずかしいね。 でも、ゴールがみえてよかったんじゃない？ ↓  へんじをもらってうれしかった。 ぷれぜんとをよくりたね よかったね！これからどうしていこうか考えよう！
15.　授業者による自由記述	今回の教師海外研修は、自分の教師人生を考え直すほどの貴重な体験となった。１４日間の研修期間だったが、自分の人生の１４年間に匹敵するほどであった。その研修で学んできたことを、いざ授業で生かそうとするとあれもこれもアイディアが思い浮かび、知識の詰め込み型の学習になってしまったり、たくさん扱った挙句に結局何を子どもたちに身に付けさせたいのか分からなくなったりする授業になりがちである。そのため、子どもの実態を考慮した上で、思い切って内容を厳選することが大切だと感じた。厳選された内容を教えることにより、子どもは自発的に学習に取り組むようになり、結果的に興味関心を広げることに繋がった。 教師という職に就いていて本当によかった。自分の夢は、「世界が平和になること」だ。その唯一のカギは、「教育」だと信じている。これからも国際理解教育を推進していき、これからの「答えのない時代」に逞しく生き、平和な世の中を創る人材育成のため、これからも精進していく所存である。 １０万円のバッグを買うより、こちらの研修に参加したほうが、何倍も自分への投資になる。迷っている先生方は、ぜひ応募を！！

参考資料：
・「生きる力」を育む国際理解教育実践資料集（ＪＩＣＡ地球ひろば）
・ＥＳＤフォト・クリップ教材集（製作：社会福祉法人東京コロニー）